



種々様々な県政の課題、 着実な解決を求めて。

一般質問
内容抜粋

「三番瀬の将来像を どう描いているのか」

かつて「三番瀬再生」を公約の目玉にしていた堂本知事の2期目の任期が来月4月で終わろうとしています。この間、この問題が大きく前進したとは言えず、いまだ三番瀬の将来像が見えてきません。知事は、任期中にどこまで区切りをつけるつもりなのか聞きました。

「私がやると言ったからといってできるものではない。関係者の理解や県民の合意形成が大事」といういつもの答弁でしたので、「任期中どこまで」と再度質問を進めたところ、「私が(3期目)に立候補しない保証は？」と逆に質問されました(詳細裏面)。

三番瀬の将来像がはっきりしない限り、第二湾岸道路の計画も宙に浮いたままとなり、浦安の新町地区の開発も終結しないと危惧する声も聞かれます。

三番瀬をいつまでにどうすべきと考えているのか、施策を明確に示し、強いリーダーシップで前に進めていただきたいと思います。

「八ッ場ダム計画を 容認する理由を問う」

八ッ場ダム(計画地・群馬県吾妻川)は、周辺整備も含めた関連事業費が約8800億円(利払い含む)と試算されている超大型公共事業で、千葉県が負担する額は約1400億円とされています。

国も県も財政難に陥っている中、43年も前に計画されたこの事業がそもそも必要なのか、それほどの規

県議会報告



08/秋

民主

【Profile】市立見明川小、見明川中出身、県立市川東高校、駒沢大学を卒業後、現みずほ銀行に入社(16年勤務)。昨年4月、民主党公認で県議会に出馬し初当選。
<http://www.yazaki-kentaro.jp/>

模の税金を投入する意味があるのか、知事がこの計画を容認している理由を聞きました。「治水・利水の面で必要」という答弁。そうお考えだとしても、知事が水没する計画地の視察をしていないことは、問題だと思えます。現地を視察し周辺住民の声を聞いて、判断をすべきです。

「不景気に喘ぐ 中小企業に支援を」

原油・原材料高騰、景気の悪化、金融不安。中小企業を取り巻く環境は、厳しさを増しています。今後の景況に柔軟に対応し、中小企業を支援していくよう強く要望しました。

「救急医療センターの 建替え・再整備を」

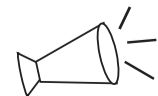
緊急医療の重要性が増す中、受け入れ拒否などの問題が深刻化しています。千葉の緊急医療の要である救急医療センターは、老朽化しており、建替えや産科など受け入れ科目の増設も課題だと考えています。早急に再整備を検討すべきと提言しました。

「NPOは支援だけでなく積極活用」

千葉県は「NPO立県千葉」を宣言し、「千葉県NPO活動推進計画」を策定しています。この夏にも「民が民を支える地域資源の循環システム」事業を立ち上げ、NPOの活動に関する情報発信や協賛を募る仕組み作りをはじめました。私は、民が民を支えるだけでなく、積極的に行政に参画していただくことが重要だと思っています。今後より積極的な施策を求めていますと述べています。

「こどもの安全を守るために」

スクールセクハラを未然に防ぐための取り組みとして、専門的な知識を持つNPOなどを活用して、実効性のある教職員研修を行うことはどうかと提言しました。県教育委員会では、学校のセクハラ相談員を対象とした研修を行っているとのこと。研修対象者を一般教員まで拡大し、ワークショップを取り入れるなど実効性を高めるように要望しました。



9月補正予算に見える 千葉県財政の現実

「当初予算編成段階で見込まれた145億円の財源不足は、今回の補正予算において、地方交付税等が約60億円の増となったことから、90億円に減少することができました」。議会冒頭、知事の挨拶は、あたかも財政状況が改善しているような口ぶりでした。しかし、その明細(左数表を見て、「90億円に減少することができた」という実態に愕然としました。



A 当初予算編成段階での財源不足	-145億円
B 9月補正段階での見込み(収支の改善)	+55億円
<プラス要素> 312億円	
地方交付税等	60億円
前年繰越金	23億円
職員人件費(退職金を除く)の減	15億円
減収補てん債	210億円
その他の歳入増	4億円
<マイナス要素> -257億円	
9月補正における歳出増	-24億円
県税収入減	-197億円
今後の追加財政需要	-36億円

C 9月補正予算編成後の財源不足(A+B)	-90億円
------------------------------	--------------

今、県では、来年度の予算要求が出揃い、当初予算(来年は知事選があるため「骨格予算」として組まれる)のやりくりの頭を悩ませているところです。千葉県の一般会計予算は約1兆4700億円。乱暴な計算ですが、3%削減で441億円、2%で294億円の予算減になります。今年度当初予算時点で財源不足だった145億円は、1%節約することで解消できる計算になります。本間に、1%も減らす余地がないのか、考えて考えた上で来年度予算を編成してほしいと強く思います。

県が「プラス要素」としている中で、突出して額が高いのが「減収補てん債」。210億円にもなりません。減収補てん債は、国が見積もった税収額を下回ったときに、発行できるいわゆる「赤字地方債」。もともとは建設事業にしか使えなかったのですが、今年2月の法改正で、財政が厳しい地方自治体が「当座のしのぎ」にも使えることができるようになったもので、長期的な「借り入れ」に変わりはありません。結局は、問題を先送りにしただけなのです。

19年度決算見込みで、県債総額は1700億円にもなります。今年もまた、その金額に「将来へのツケ」が上乗せされ、それでもまだ90億円も足りない現実。当初予算編成時の145億円の財源不足より、更に状況が悪化していると思うのは私だけではないでしょう。

「四年の任期」

矢崎エッセイ「真剣勝負」



一般質問にたちました。10月2日の午後のことです。翌日の新聞に、堂本知事が議場で怒りをあらわにされたことが、書かれていましたので、「いったい矢崎は何をやったのか」と、ご心配されている方も多いかと思えます。

私が用意した質問は5件。知事に「失礼」と受けとられてしまったのは、三番瀬に関する質問の際の私の発言です。

私は、かねてから、議員には任期があることを、強く意識しています。いわば4年の契約で市民・県民の付託を受けているわけですから、皆さまにお約束したことを前に進める努力を絶え間なく続け、4年の間に結果を出していかなければならないと考えています。当然のことながら、首長という

職にも任期があり、三番瀬の問題については、任期中にどこまで区切りをつけるかは、知事も考えておられることだと思っております。いや、今も考えていらっしやるかと信じております。しかし、私が「任期中にどこまで」を強調して質問したことが、知事の琴線に触れてしまったようです。

「私が絶対立候補しない保証は」と、逆に質問をされてしまったときは、正直戸惑いました。私が「知事がもう立候補しない」と決め付けているか、もしくは「立候補するな」と言外に述べたと受け取られてしまったのだとしたら、言葉足らずをお詫びしたいと思います。

その他にも、私の「若さ(政治の世界基準)に対して、「単純」とご指摘くださる知事発言もありましたので、党の先輩たちが抗議を申し入れました。最終日に、知事はご自分の発言を不適切と認め、該当箇所が議事録から削除されました。

私は、知事が3期目に出馬されるかどうかは別に、来年度4月の任期までに、この問題にどんな区切りをつけるおつもりなのかを聞きたかっただけなのです。

議員に許されている一般質問の機会が年1回。堂本県政の2期目の任期中に直接お考えを聞ける最後の機会でした。お怒りを招いた結果、逆質問という形の答弁になり、質問に対するお答えがなかったことが本間に残念です。

ぜひ、一度三番瀬に対する知事の熱い想いを伺いたいと願っております。別の機会に、私の質問に対するお答えをいただけないでしょうか。堂本知事。



県政に あなたの声を!

行政相談・県政へのご意見
お気軽にお寄せください。

Web <http://yazaki-kentaro.jp>
Mail info@yazaki-kentaro.jp
Tel 047-720-0929
Fax 047-720-0939



▲アドレスや電話番号を読み込みます。